

科学研究費(研究代表者:長谷川信子)2007年度研究活動報告

雑誌名	Scientific approaches to language
巻	7
ページ	307-308
発行年	2008-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1092/00000191/

平成 19 年度 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (B)
『文の語用的機能と統語論：日本語の主文現象からの提言』
研究代表者 長谷川信子

2007 年度 研究概要

上記の研究プロジェクトは、平成 19－21 年度の 3 年間にわたるもので、その目的は、以下のようなものである。

GB 理論など、文の命題的意味と構造を中心課題としてきたこれまでの統語理論では扱い切れなかった「語用的機能と統語構造との関係」に関わる現象を考察し、特に、そうした現象が豊富でかつ特徴的に現れる日本語の現象を、日本語学における知見も取り入れながら広範囲に考察し、日本語の統語論から統語理論への貢献を目指す。これまで統語理論では系統的に扱われることの少なかった、「命題」を越えた話者の命題への態度と密接に関わるモダリティや終助詞、「疑問」「命令」等の語用機能を担う統語的要素などにも、積極的に焦点をあてた研究を進めるが、その内容は、報告書や学会等での発表に留まらず、テーマを絞ったワークショップを開催することで、広くこのテーマに関わる研究の機運を高めたい。

上記の目的に照らし、今年度は、国内外からの研究者を招聘し、3つのワークショップを都内で開催し、多くの参加者を交え、理論言語学と日本語学、日本語と英語・他言語研究、などの観点から活発な意見交換の場とした。それらの内容は、上記(2)～(4)のワークショップ・プログラム、およびその発表論文要旨に詳しく掲載してある(pp. 290～300 参照)。また、これらのワークショップの他に、神田外語大学において、研究協力者、若手研究者、学生を交えた「科研サロン」を数回開催し、インフォーマルな雰囲気の中で今後の研究に生かせる様々な課題・論点を討議した。これらのワークショップ、科研サロンで発表された論文や研究ノートの本数は、本紀要および、今年度の報告書(次頁の目次参照)に掲載し、刊行されることとなっている。

平成 19～21 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））
『文の語用的機能と統語論：日本語の主文現象からの提言』
（研究代表者 長谷川信子）

研 究 報 告 書（掲載内容予定）

本研究課題の概要と目的 長谷川信子

第 1 部：「2007 年度開催のワークショップ」から

節のタイプと呼応現象：CP システムと一致 長谷川信子

普遍的な統語構造地図における日本語の終助詞 遠藤喜雄

日本語の「懸垂疑問文」に関する一考察 石居康男

情報構造とミニマリスト 奥 聡

日本語条件節と時制 有田節子

Embedded Sluicing in Japanese Jun Abe(阿部潤)

The Syntax of Adverbial Clauses Liliane Haegeman

Subject Omission in Present-day Written English: On the
Theoretical Relevance of Peripheral Data (handout)（現代英語
における主語省略：周辺的データの理論との関連）

Liliane Haegeman（和訳：遠藤直美）

Comments on Symposium Papers Shigeru Miyagawa(宮川繁)

第 2 部「科研サロン」から

談話構成法から見た日本語 井上和子

日英語の Yes / No 疑問文の答えの統語構造 神谷昇

「ありがとう」の先行節の「くれて」について 上原由美子

形容詞のテンスとモダリティー 長谷部郁子

意味と統語から見た Xナラ 眞鍋雅子